

## 第18回古代官衙・ 集落研究集会の開催

奈良文化財研究所では、古代官衙と集落に関する研究集会を毎年開催しています。本研究集会は、律令国家を象徴する都城とその対極にある集落、その両者を結ぶ地方官衙の有機的な関係をあきらかにすることを目的としています。1996年に第1回研究集会を開催し、現在にいたっています。

2014年12月12・13日に第18回研究集会を開催しました。今回は「宮都・官衙と土器」をテーマとし、7名の報告者による研究発表と総合討論をおこないました。参加者は148名でした。

総合討論では玉田芳英（都城発掘調査部副部長）の司会のもと、都城・官衙遺跡から出土する土器の特徴とその歴史的背景について議論が交わされました。また、各報告者が扱った地域以外の研究状況についても多数の参加者からの発言があり、活発な討論となりました。これらの成果は来年度、研究報告として刊行する予定です。

本研究集会は、考古学・文献史学・建築史学・歴史地理学等、諸分野の研究者が一堂に会し、律令国家を構成する様々な遺跡、遺構、遺物の中から毎年一つのテーマを取り上げ、様々な角度から掘り下げていく学際的な研究集会である点に特色があります。都城を主なフィールドとする私たちにとっても、遺跡から古代国家をあきらかにしようとする共通の問題意識を持った方々と議論を交わせることは、大変勉強になります。今後とも古代官衙・集落研究会の活動にご注目ください。

（都城発掘調査部 小田 裕樹）



発表の様子